

第 20 回 全国ユニオン大会宣言

新型コロナウイルスのパンデミックは、一部の国・地域は終息に向かいつつある。翻って、日本政府は新型コロナウイルスの蔓延を防ぐことができず、昨年から現在に至るまで、ついに 4 度の緊急事態宣言を発出するに至っている。感染者数が、東京で連日 1000 人を超えるなど収まる気配がないにもかかわらず、世界中から人を招く「祭典」としてのオリンピックの開催が目前に迫っている。当初、お題目となっていた「復興五輪」もなし崩しになり、もはやオリンピックが国民・市民のために行われるものではないことは明かになった。

その一方で、時短営業だけでなく酒類の提供も制限された飲食店と酒店は苦境に陥っている。止むにやまれず営業に踏み切っている店舗も目立つようになった。しかし政府は、営業に踏み切った店舗に対して、金融機関を使って締め付けを行おうとした。これは、香港政府が会社資産を抑えて、言論の砦となっていたメディアを倒産に追い込んだやり方と同じだ。世界のどこであろうと、権力者によるこのような言動を許してはいけない。

私たちは、労働組合だけでなく市民運動の仲間とも力を合わせて、年末年始に東京・新宿で「年越し支援 コロナ被害相談村」を開設した。相談に訪れた人の中には、直前まで非正規労働者として働いていた人も少なくなかった。特に、非正規労働者の多数を占める女性の生活を一気に困窮させた。奇しくも新型コロナウイルスは、日本社会に広がっていた格差や分断などあらゆる矛盾を浮き彫りにした。コロナ後はこれらの問題を克服した、新しい社会を築いていかなければならない。

イギリスでは、労働組合がコロナ禍で社会に広がる不安のより所となり、組織率を向上させた。全国ユニオンも結成以来、訴えてきた「あらゆる働き方の労働者に権利を」をさらに進化・発展させ、私たちも働く者の社会への不安を受け止める受け皿となろう。そして、仲間との連帯の力で、コロナ後の社会に向けて、働き方や国籍などにとらわれず、会社で、地域で、一人ひとりが安心して希望をもって生活し、働ける社会を実現していこう。節目となる第 20 回定期大会を、新たな社会の実現の第一歩とし、着実に歩みを進めていこう。

以上、宣言する。

2021 年 7 月 17 日

全国ユニオン 第 20 回定期大会